



私は2021年10月から2023年12月まで、中央アジアにあるキルギス共和国という国でJICA海外協力隊員として活動していた。首都のビシュケクにある職業訓練校で、15歳から20歳の若者たちにグラフィックデザインを教えた。

JICA だより



キルギス
(2021～23年)
ビーバース ゆう さん
広島県熊野町

ヒロシマ 共感のアート

たちに自分で考えさせるという時間がないため、「自由に絵を描いてみよう」と私が言うと、手が止まってしまう子も少なくない。

限られた期間で彼らの想像力を培うためにできることは何か。思い付いたのが現地アーティストたちとのコラボ企画「再起」という



再起プロジェクトの参加者たちと（前列左から2人目）

アートプロジェクト。これは広島平和文化センターから提供された原爆資料と、アートの展示会を「再起」というコンセプトでつなげたプロジェクトだ。

当初は、多様なアーティストたちとの共同制作を通じて学生たちの視野を広げたい、との思いから10人程度のアーティストを招待した。だが「ヒロシマからの平和への願い」というテーマに共感してくれる参加者が増え、キルギスの国内外で活躍するアーティスト40人が出展する大きなプロジェクトへと成長した。

この時のJICAキルギス事務所長と在キルギス日本大使が広島出身だったことも偶然という言葉では済ませることができない。そして関西出身の私は今、広島県熊野町にいる。

ネットですべての経験を生かせる場所を探していたところ、「熊野筆×アートプロジェクト×地域おこし」というピタリの求人を見つけた。キルギスから不思議な縁でつながっている広島でこれらの経験が今後どこへ導かれていくのか楽しみでならない。